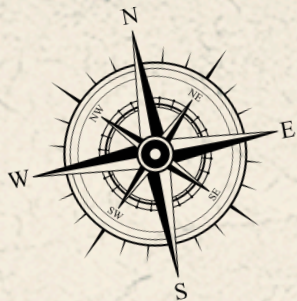


Zambia

2025 jica program

diary





Muli Bawanji?

Hello! How are you?



機内・カタールでの乗り 継ぎ

成田を出発し、カタールまで約10時間
間のフライト。興奮もあり、ほとんど
睡眠が取れず疲労を感じました。長時
間移動に備え、安眠グッズの重要性を
実感しました。

カタール航空の機内や空港は非常に
豪華で、産油国ならではのスケールを
感じました（物価の高さにも驚かされ
ました。）空港内を見学し買い物をし
ているうちに、乗り継ぎ時間はあっ
という間に過ぎ、次のフライトへと向か
いました。

日本出発・成田空港

仙台から新幹線で成田空港へ向か
いました。出発前は両替対応や荷
物・手荷物検査で一部トラブルもあ
りましたが、大きな問題なく全員が
出発準備を整えることができました。

イリチェ（今回の研修チーム名）
メンバーとは事前研修を通して交流
が深まっていたため、当日は緊張感
もなく、終始和やかな雰囲気で行動
することができました。搭乗前には
全員で集合写真を撮影し、いよいよ
研修が始まる実感が高まりました！

いよいよザンビア到着！

成田出発から約25時間後、無事ザン
ビアに到着しました。空港周辺に広がる
景色は、まさに「アフリカ」を感じさせ
るもので、現地に到着した実感が一気に
湧きました。

空港の外に出た瞬間の高揚感は今でも
印象に残っています。ZAMBIAモニュメ
ント前で集合写真を撮影し、これから始
まる研修への期待に胸を膨らませなが
ら、ザンビア研修をスタートさせまし
た。



World
Map

day 2 Destiny church

○ ディスティニーコミュニティースクールの チャーチサービス見学・参加

ザンビア到着後、はじめに訪問したのが、ディスティニーコミュニティースクールで行われていたチャーチサービス。私の教会での祈りのイメージは、静かに目を瞑ってお祈りをしている様子を想像していました。でも、行って驚き！！歌やダンス、とても賑やか！明るい！楽しい！牧師さんの話は、とても熱くみんなが聞き入る様子が印象的でした。宗教に対する熱い思いを感じた時間でした。



また、コミュニティースクールの先生方が、私たちをおもてなししてくださり、豪華な昼食会を開いてくださいました。その中で、ザンビアの主食、シマを初実食！！一口サイズに手でこねて丸め、スープにつけたり、オクラやカタピラをシマに乗せたりして食べました。日本にはない新鮮な体験にみんなで感動★到着後、初のザンビアでの食事は、「味」も「ザンビアの方々のおもてなし」も最高！！



○ ルサカ市内視察

カブワタ文化村、Pakati Marketを訪問し、教材として活用できそうな、ザンビアグッズを購入。ザンビアの人がよく着ているチテンゲ。これは、結婚式など、式典時にも着用するそうです。色とりどり、様々なデザインがあり、どれにしようか悩みました。また、シマを作る時に必須なシマ棒も購入。シマの原料は、トウモロコシの粉なので、日本でもシマを作りたいと感じました！



day 3 Matero General Hospital



この病院は、ルサカ市内のコンパウンド（低所得者層が多く住む居住区）に位置し、「レベル1」と呼ばれる一次医療を担う施設です。ここでは、結核の治療に加え、地域住民の基礎的な医療対応を行っています。レベル1で対応困難な重篤なケースは、より高度なレベル2の病院へ搬送される体制となっています。現在、病院の運営管理支援のため、日本から派遣された協力隊員も活動しています。

ハード面の課題

病院に到着してまず目に飛び込んできたのは、パンクしたまま放置された救急車。車両の故障やガソリン不足により、助けを必要としている患者のもとへ駆けつけることが困難な状況。院内設備にも日本との大きな格差を感じました。ストレッチャーは簡易的な造りで、16年前に日本が支援したレントゲン機器は、機械自体は稼働するものの、フィルムの在庫がないため、視察当日は使用できない状態でした。



初めての産声、ソフト面の課題

今回の視察で、私は初めて赤ちゃんの産声を聞き、自然と涙が溢れました。設備の整わない環境であっても、生命誕生の尊さは万国共通であることを強く実感した瞬間です。産科の看護師さんによると、出産8時間後には母子ともに退院するそうです。帝王切開の場合でも3日とかなり短いことに驚きました。

産科が直面する課題は「Space（場所）、Transport（搬送）、Human Resources（人材）」であると伺いました。特に人材不足は深刻で、30件の分娩に対し、わずか3人のスタッフで対応せざるを得ないケースもあるそうです。

・国民健康保険「NHIMA（ニマ）」

現地インタビューを通じて、ザンビアの保険制度「NHIMA（ニマ）」の実態も明らかになりました。NHIMAは月30クワチャ（日本円で約180円）程度の負担が必要です。現地の感覚でも「高くない」負担額とされています。NHIMAへの加入の有無を問わず医療費は無料です。しかし、無料で診ない病院もあるため、無料の病院に患者が集中する現状があります。一方で、NHIMAに加入していると、専用の病棟や薬局が利用できたり、産後に個室ベッドが使えたりするなど、効率的かつ快適に医療を受けられる利点があります。



day 4

Destiny Community School & George compound



教師海外研修の目玉とも言える現地の学校訪問。日本にいた時から、現地の子どもたちに何を聞いてみようか、どんなことをして交流しようか...メンバーで幾度となく話し合ってきました。前日の夕食の際も、役割分担から英語での説明まで細かく確認した私たち。でも行ってみるとそんな計画はどこへやら! 温かい歓迎の歌から始まり、一緒にダンスをしたり、ソーラン節を披露したり...決して計画通りとは行きませんが、むしろそのような交流の中でメンバーそれぞれが子どもたちと関わったからこそ、現地のよりリアルな生の声を聞くことができました。



Custom-made Chitenge

実はチャーチサービスの際に、ディスティニーの方に採寸をして頂いた私たち。好きな色と形を伝えてわずか2日。一人ひとりにあったオーダーメイドチテンゲを頂きました! カラーもサイズもぴったり! そして何より私たちのために手作業でチテンゲを作ってくれたことに、とても心が温かくなりました♡これで私たちもザンビア人の仲間入り?!



George compound

午後は学校近くのコンパウンド(スラム)を訪問。始めに行ったマーケットでは、常温保存の生肉や子どもたちが働く姿を見て驚愕。その後訪れた住居スペースでも、壊れた水道や衛生的とは言えないトイレなどを目の当たりにしても複雑な感情が芽生えました。しかし、さらには中へ足を進めると、笑顔で談笑をしている大人や子どもたちがたくさん。勝手にコンパウンドにいる人々は...と決めつけていた自分がとても恥ずかしくなりました。そんな私たちの周りにはいつしかコンパウンドの子どもたちが...。彼らは肌の色も違う、話す言葉も通じない私たちが戸惑うことなく受け入れてくれ、気がつくまでコンパウンド中で追いかけてこが始まっていました。無我夢中で走り続け、子どもたちの純粋な笑顔を見る中でいつしか私の中の決めつけや戸惑いは消えていきました。私たちがコンパウンドを去る時、バスが見えなくなるまで追いかけてくれた子どもたちの姿を私は一生忘れることはないでしょう。



Zambia WASHE Advocacy Network (ZWAN)



コミュニティ開発担当の協力隊の方が活動している NGO団体の方とヴィレッジに行きました。途中から道路はなく、ガタガタでゴコゴコの道をバスがうねりながら進みます。30分以上進むと、民家を発見しました。そこでは、現地の方が使用しているトイレを見学させていただきました。穴が掘ってあり、その周りを崩れかけたレンガで囲んでありました。他のトイレは、周りをコンクリートで固め、小さい子どもが落下しないように作られていました。



あるヴィレッジを訪れた際に、ダンスと歌で私たちを大歓迎してくれました。貴重な食べ物や飲み物を用意し、おもてなしをしてくれたことに胸が熱くなりました。このヴィレッジでは、ポンプ機能が壊れた井戸を修繕した方がいいと話す NGO 団体と住民たちが実際に話し合う姿を目の当たりにしました。ヴィレッジの人々の現状を理解しつつ、改善していこうとする現地の NGO 団体や協力隊の方の姿が印象的でした。

最後に・・・

NGOの方でいつもラジオをぶら下げている方がおり、その方が流していたアフリカンミュージックのノリがよく、現実と向き合い複雑になっていた私たちの心を暖かくしてくれました。そこから私たちイリチエチームのテーマ曲ができ、団結力がさらに深まりました。私たちのかけがえのない存在になってくれたザンビアの方に感謝でいっぱいです。このヴィレッジで皆で見た夕日は忘れられません。

day 6

St. Vincent de Paul Community School

首都ルサカから約190キロ離れたところにあるモンゼのコミュニティスクールを訪問しました。出迎えてくれたのは、なんと日本のアニメを描いたウェルカムボードを手にした子供たち！そしてここでも温かい歓迎を受け、心のこもったおもてなしに感激しました。



この学校では、PCインストラクター隊員による授業見学を行いました。ルサカの Destiny Community School と同様、「ないなら、あるもので工夫する」という精神が随所に見られました。お金を出せば何でも手に入る日本とは違い、「ない」が当たり前のザンビア。足るを知る姿勢は、日本人が学ぶべき大切な心だと感じました。また、鶏のひなの育て方や菜園づくりなど、生活に根ざした技術を学ぶ機会も提供されていました。不便な環境の中でも工夫を凝らし、学ぶ意義をしっかりと見出して貪欲に学ぶ子どもたちの姿が印象的でした。さらに、伝統ダンスを披露してくれたり、シマの調理体験をさせてもらったりと、文化に触れる貴重な時間もありました。



day 7

Livingstone Museum

リビングストーン博物館を見学！



JICAの支援により設備の整備が進んでいる博物館です。館内はザンビアの歴史や19世紀の探検家のデイビッド・リビングストーン、国内の動植物についての展示が中心です。私が衝撃を受けた展示は、アラブ商人による奴隷貿易で多くのアフリカの人々が鎖や首輪で繋がれて連れていかれる様子を表現した立体ジオラマでした。また、イギリスによる植民地支配のもとで労働力として酷使されていた写真にも衝撃を受けました。ザンビアの人々が自分たちの祖先が受けた扱いをリアルな再現で見るとは非常に苦しいことだと思います。一方で、独立後の力強い歩みについても充実した展示がありました。自分たちの歴史に向き合い、未来に向かって力強く進もうとするザンビアの人々の強い意思を感じられる博物館でした！

ジンバブエドルをゲット！

博物館を見学後、玄関前でお札を持って出待ちをしている人たちに遭遇。何かを売りたいがっている様子でした。よく手元を見てみると...、なんとジンバブエドルです！！インターネットでしか見たことがなかったお札に思わずテンション爆上がりで購入してしまいました（笑）お金を払ってお金を購入する、よく考えると不思議なことです。購入したお札の0の数を数えてみると10個！50000000000ジンバブエドルとなります。ザンビアの隣国ジンバブエで使用されていたお金は世界的にも有名で観光客は物珍しさに買っていく人が多いものと思われます。私もまんまと引っかかりました（笑）



day 8

VICTORIA FALLS

福島県郡山市立郡山第七中学校
伊澤 智佳子



ili che!

いよいよ最終日。ザンビアの大事な観光資源でもある「ビクトリアの滝」へ。日本からレインコートとサンダルをもっていき、準備は万端!

ザンベジ川の途中にあるこの滝は、世界三大瀑布であり、世界遺産にも登録されています。いざ入り口を抜け滝に向かうと、ものすごい水の音と水しぶきが...

轟音の方へ向かう途中には、今回の研修の最後にふさわしいダブルレインボーを見つけ、みんな笑顔に! 朝早い時間にも関わらず、みんなのテンションはMax!! さすがのビクトリアフォールズ!

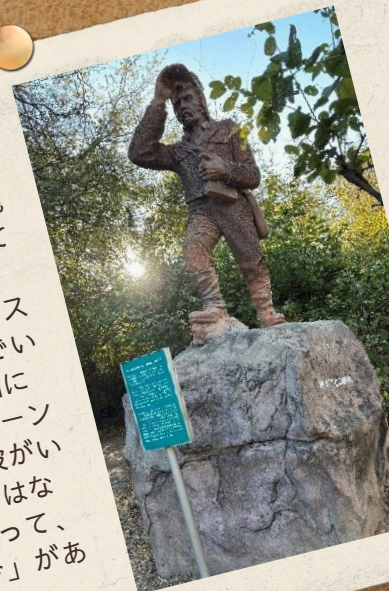
思えば、遠い日本から来た私たちに、この研修中ザンビアの人たちはいつでもどこでも優しくった。滝の向こう側はジンバブエ。つながる隣国。やっぱりみんな地球市民。自分たちができることは何だろう。この壮大な滝を前に、私たちは改めて考えたのでした。



滝を見た後は、入り口にたくさん連なるお土産屋さんへ。私たちの着ているレインコートを指して「〇〇クワチャ! 〇〇クワチャ!」と、どうやら買い取りたいらしい。お店を見ると、たくさんのレインコートが...。買い取ったレインコートをレンタルして、お金を得る。世の中にはいろんな商売があって、世界はまだまだ広いのだと気づかされました。

地名の由来

リビングストーンという地名は、ヨーロッパで初めてザンビア一帯を探検したデイヴィッド・リビングストンの名前にちなんでいられるそうです。滝の入り口には、そのリビングストーン像がありました。彼がいなければ、今ザンビアはなかったかも?? 歴史って、全部つながって「今」がある!!



Return Trip



リビングストン空港に到着後、1週間バスを運転してくださった運転手さんに感謝を伝え、空港内へ。

チェックイン直前までスーツケースを開け荷物をどうにかしようと思死に！重量オーバーにならないようにみんなで工夫しました！

ここでも発揮された団結力！！！！



リビングストン空港からヨハネスブルク空港、ドーハ空港を乗り継いで約20時間以上。1週間ぶりの日本・羽田空港へ到着！お疲れ様でした！とみんなで労わりながら荷物を取りに。

・・・なんとドーハ空港から羽田空港間でのロストバゲージ！！私のスーツケースだけが飛行機に乗らず、2日後に寂しく帰国してきました・・・ (泣)

やはり旅にはトラブルはつきもの。さまざまなものを見て、聞いて、感じて、学んで・・・ロストバゲージも含めて本当に充実した研修でした！





Zikomo !

Thank you !



デザイン・編集
宮城県仙台市立愛宕中学校 相澤 伊織